

高校生をもつ保護者の皆さまへ

# 地方の 国立大 の魅力

[ 金銭編 ]

地方の家賃は  
どれくらい?

授業料  
免除制度って?

ひとり暮らしが心配

4年間で  
生活費いくら?

アルバイトは?

奨学金は?

毎月の  
仕送りは?

親離れ?



# はじめに

2018(平成30)年8月、東京都立昭和高校で開催された「地方国公立大学合同説明会」に参加した保護者と生徒を対象に「地方国公立大学を志望校として検討する場合、課題となるものは何か。(複数回答可)」と訊ねたところ、次のような結果となりました。

〈保護者〉 (n=136)			〈生徒〉 (n=263)		
地方国公立大学を志望校として検討する場合、課題となるもの	件数	%	地方国公立大学を志望校として検討する場合、課題となるもの	件数	%
1.生活費の負担	73	53.7	1.生活費の負担	119	45.2
2.一人暮らしの不安	67	49.3	2.一人暮らしの不安	108	41.1
3.卒業後の進路	45	33.1	3.大学の様子がわからない	72	27.4
4.受験科目の負担	36	26.5	4.受験科目の負担	64	24.3
5.大学の様子がわからない	29	21.3	5.卒業後の進路	58	22.1
6.受験会場が心配	18	13.2	6.受験会場が心配	38	14.4



## 01. 大学を取り巻く環境 ～昔と今の違い～

→ P04~05

## 02. 大学生の現状 [支出面] ①概要 ①学費 ②生活費

→ P06~09

## 03. 大学生の現状 [収入面] ①概要 ①仕送り ②奨学金 ③アルバイト

→ P10~15

## 04. 保護者の皆さまへの メッセージ

→ P16

## CONTENTS [目次]

本紙は、保護者の皆さまが子どもの大学進学を検討される際に必要となる、金銭面についてとりまとめています。以下の流れで情報を整理しています。

まず、保護者の皆さまには、大学を取り巻く環境と社会情勢を、**ご自身が高校生だった頃(30年前と仮定)と、現在を比較しながらご把握いただきます(01)**。

その上で、大学進学をして大学生として生活を行っていくのに必要なお金について、**支出面(02)と収入面(03)**から、確認をしていただきます。支出面においては、「学費」と「生活費」の2点について詳しく説明します。収入面においては「仕送り」「奨学金」「アルバイト」の3点について説明します。

ちょっとその前に・・・

大学進学にかかる「費用」を考える前に、大学卒業後のこと、つまり、社会人になって社会で働き獲得する「賃金」について、確認しておきましょう。右のグラフをご覧ください。上段のグラフは、厚生労働省による、2017(平成29)年の学歴・性別・年齢階級別の賃金調査の結果グラフです。左側に男性、右側に女性の賃金グラフが描かれています。下段のグラフは、同調査の2001(平成13)年結果です。2017(平成29)年と2001(平成13)年を比べてみると、グラフの山の形は年度によって大きく異なりますが、学歴別で見ると、どちらも同じような“差”があることがわかります。

地方の国公立大学を志望校として検討するのに“課題”として挙がったものは、保護者・生徒ともに、**1位が「生活費の負担」、2位が「一人暮らしの不安」**でした。約半数の保護者と、4割以上の生徒が、この2つが“課題”と回答しました。特に保護者にとっては、大きな懸念材料であることがわかりました。

住み慣れた地元を離れ、地方の国立大学へ進学する際、“生活費”や“一人暮らし”に関する情報は、保護者や生徒の皆さまにとって極めて重要です。しかし、これまで大学側は遠方の保護者・生徒にとってわかりやすい情報を、十分に提供できておりませんでした。

これから大学受験を控える保護者と生徒の皆さまにとって、安心して地方の国立大学を進学先として検討していただけるよう、本紙を企画し制作しました。限られた紙面で情報をコンパクトにまとめているため、テーマによっては詳しい説明を割愛している箇所があります。特に「奨学金」については、制度の詳細が毎年変わるものがあります。各種運用団体のHP上で、最新情報を必ずご確認ください。奨学金制度や進学にかかる金銭面について、より詳しくわかりやすくまとめられた図書を、以下にご紹介しておきます。ご参考下さい。

### 参考図書

- 久米忠志(2012)『子どもを大学に行かせるお金の話—年収200万でもあきらめない!— 主婦の友社
- 給付型奨学金研究会編(2016)『大学進学のための全国“給付型”奨学金データブック[最新版]』産学社
- 柴田武男・鴨田譲編 埼玉奨学金問題ネットワーク著(2018)『奨学金 借りたとき 返すときに読む本』弘文堂
- 竹下さくら(2018)『「奨学金」を借りる前にゼッタイ読んでおく本』青春出版社
- 本山勝寛(2018)『今こそ「奨学金」の本当の話をしよう。—貧困の連鎖を断ち切る「教育とお金」の話—』ポプラ社

※国の奨学金に関する詳細は、「日本学生支援機構(JASSO)」のHPをご確認下さい。また、国の教育ローンについては、「日本政策金融公庫」のHPをご確認下さい。



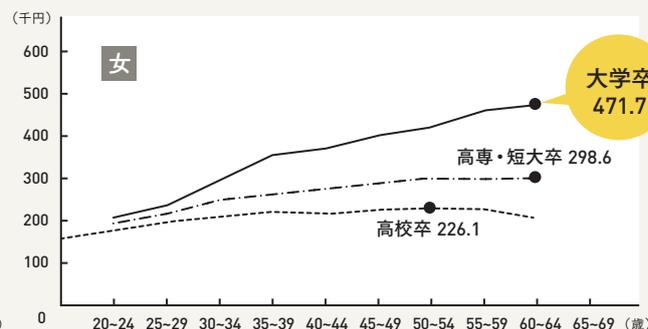
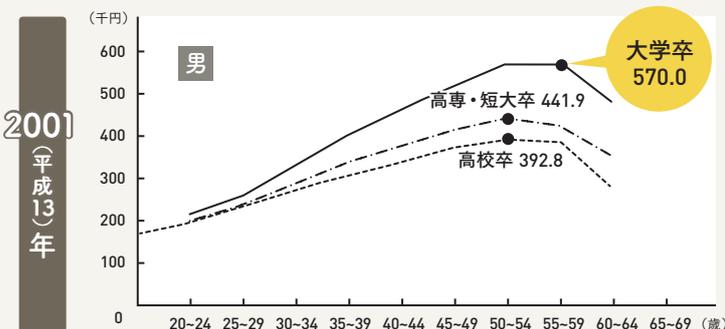
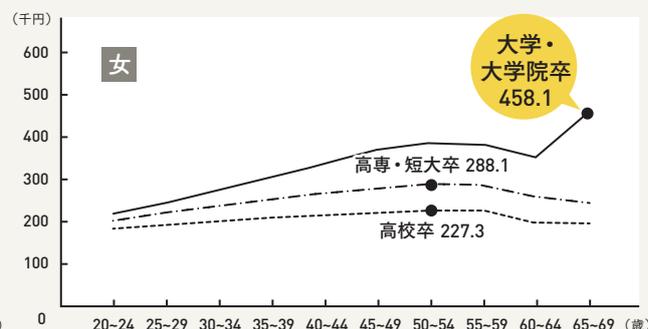
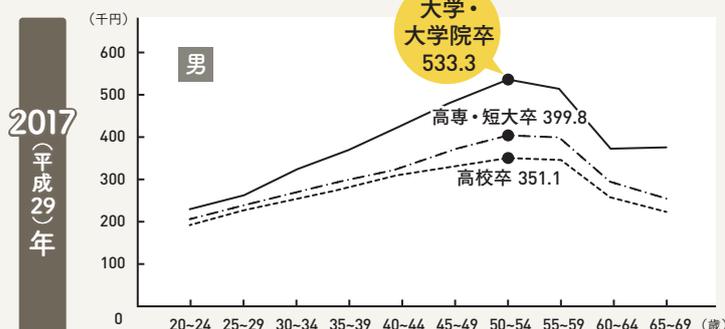
**日本の奨学金** 日本学生支援機構(JASSO)HP 奨学金  
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/>



**日本の教育ローン** 日本政策金融公庫HP 教育一般貸付  
<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

## 学歴、性、年齢階級別1ヵ月の賃金

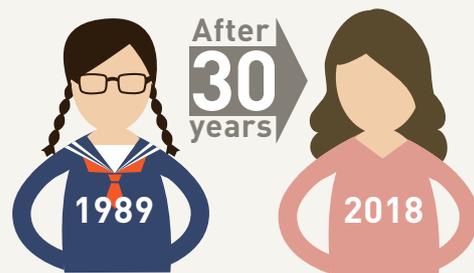
e-Stat 厚生労働省 賃金構造基本統計調査より  
 2017(平成29)年と2001(平成13)年の6月分の賃金等



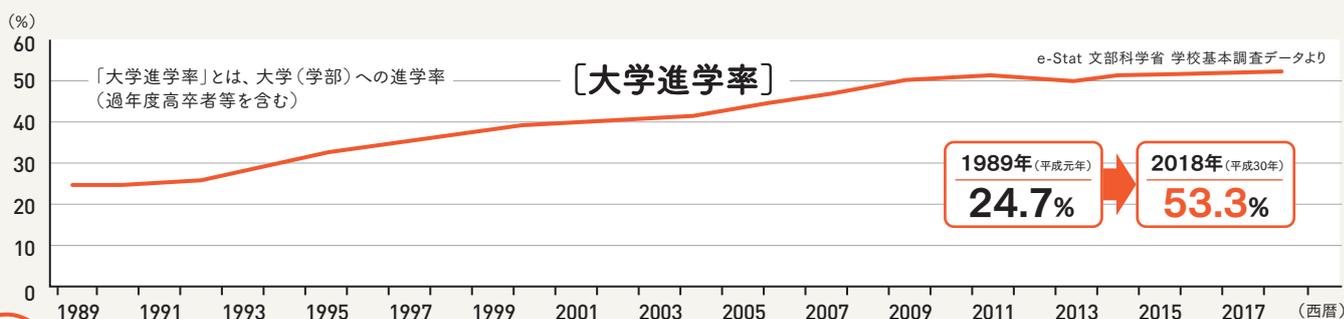
# 01.

# 大学を取り巻く環境～昔と今の違い～

約30年前、保護者の皆さまが高校生だった頃の  
 “大学進学”と、現在の高校生の“大学進学”では、  
 社会的状況が大きく変化しています。  
 大学を取り巻く環境について、整理します。



**! CHECK** 30年前の1989(平成元年)年、197万人だった「18歳人口」は、2018(平成30)年には117万人へと減少。



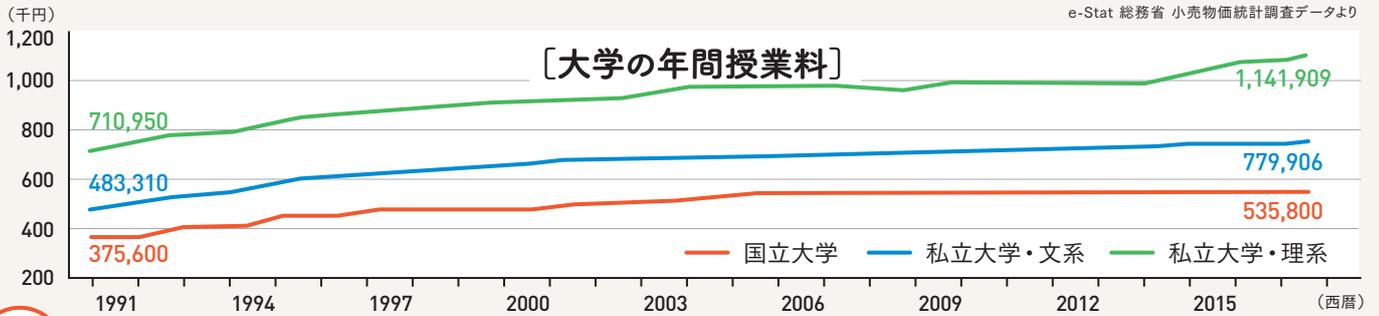
**! CHECK** 30年前の1989(平成元年)年、24.7%だった「大学進学率」は、2018(平成30)年には53.3%に上昇。



**! CHECK** ピークの1992(平成4)年の167万人の高卒求人は、約20万人まで低迷、その後、約40万人で推移。



**! CHECK** 景気トレンドの影響を受けやすく超氷河期時代に約40万人だったが、近年80万人まで回復、安定傾向。



**CHECK** 年間授業料は、国立大ではこの10年間横ばい(54万円)の一方、私立大は文系・理系ともに上昇傾向。



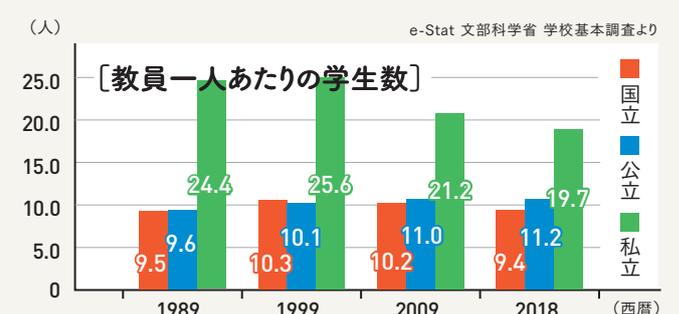
**CHECK** 民間事業所に勤務する給与所得者の平均給与は、2000年以前の状況までには回復せず。



**CHECK** 奨学金の受給は、約30年前で「5人に1人」(約2割)だったが、近年では「2人に1人」(約5割)が受給。



**CHECK** この30年間で、国立大学は10校減で在籍者数10万人増、私立大学は240校増で在籍者数は60万人増。



**CHECK** この30年で教員数は国公立ともに増。教員1人あたりの学生数(ST比)は国公立大変わらず。

現在の大学生の「支出」はどのようになっているのでしょうか。

日本学生支援機構(JASSO)が2年に1度、全国の大学生を対象に実施している『学生生活調査』の2016(平成28)年度の結果をみてみましょう。年間の学生生活費(総支出)は、大学(昼間部)で合計188万円、その内訳は学費119万円、生活費69万円でした。大学区分別をみると、国立大で合計151万円(学費64万円+生活費87万円)に対して、私立大で合計200万円(学費136万円+生活費64万円)でした。

[支出]=  
①学費+  
②生活費



① 学費		
授業料	922,400	
その他の学校納付金	124,100	
修学費	46,100	
課外活動費	36,000	
通学費	64,800	
計	1,193,400	

② 生活費		
食費	174,100	
住居・光熱費	190,400	
保健衛生費	36,300	
娯楽・嗜好費	139,500	
その他の日常費	150,500	
計	690,800	
合計	1,884,200	

区分	① 学費			② 生活費			合計	
	授業料 その他の 学校給付金	修学費 課外活動費 通学費	小計	食費 住居・光熱費	保健衛生費 娯楽・嗜好費 その他の 日常費	小計		
大学(昼間部)	国立	506,700	135,800	642,500	553,300	315,900	869,200	1,511,700
	公立	537,200	124,100	661,300	446,400	323,700	770,100	1,431,400
	私立	1,210,000	150,900	1,360,900	314,100	328,900	643,000	2,003,900
	平均	1,046,500	146,900	1,193,400	364,500	326,300	690,800	1,884,200

(単位:円)

(単位:円)

年間の学生生活費(総支出)について、国私別・地域別・居住形態別でみたグラフが以下です。地域別は「東京圏・京阪神・その他」の3区分、居住形態別は「自宅・学寮・アパート等・平均」の4区分となります。「私立・自宅」の東京圏で184.7万円、京阪神で172.8万円、その他で166.2万円に対して、「国立・アパート等」のその他は171.0万円です。



### 受験から入学までにかかるお金は?

大学に入学してからのかかる費用は想像しやすいところですが、受験から入学までにかかる諸経費も大きな額となります。「思わぬ出費」とならないよう、事前に準備しておくことが必要になります。

入学までにかかった費用・国公立(専攻別/住まい別)

(単位:円)

	国公立			国公立文科系			国公立理工系			国公立医歯薬系		
	平均	自宅	下宿	平均	自宅生	下宿生	平均	自宅生	下宿生	平均	自宅生	下宿生
出願をするためにかけた費用	121,700	132,700	116,600	129,600	144,200	121,100	118,000	127,800	114,100	106,800	102,000	112,500
受験のための費用	59,500	17,500	86,400	86,400	15,400	86,800	59,800	17,200	83,900	70,200	28,100	97,600
入学した大学への学校給付金	624,800	626,100	625,600	625,600	623,400	631,700	621,100	625,400	619,200	637,300	642,600	636,600
合格発表や入学手続きのための費用	23,700	3,900	39,400	21,600	4,000	38,600	25,400	3,700	40,200	24,100	4,500	38,500
入学式出席のための費用	25,300	5,100	39,600	23,700	4,500	38,700	26,000	5,200	39,500	29,100	7,500	44,100
教科書・教材購入費用	197,100	179,200	210,600	187,700	171,200	202,200	203,700	186,000	215,500	202,600	183,500	217,000
住まい探しの費用	187,700	—	192,800	187,600	—	194,200	181,400	—	185,500	223,300	—	227,600
生活用品購入費用	233,800	89,100	314,500	225,000	86,700	313,200	235,000	90,000	308,100	265,400	95,900	353,300
その他の費用	221,800	110,500	286,500	200,400	103,700	265,100	233,400	114,900	294,100	252,700	120,500	328,100
合計	1,672,200	1,278,400	1,989,000	1,637,200	1,282,600	1,970,300	1,687,300	1,278,800	1,976,100	1,745,500	1,256,100	2,129,500



全国大学生生活協同組合連合会による『2017年度保護者に聞く新入生調査』によると、「出願・受験・入学手続・入学式・教科書購入・生活用品購入等」の費用で、「国公立」の「自宅」の場合でも約130万円、「下宿」の場合だと約200万円もの費用がかかっています。

## 大学生を送るのに必要な「学費」について、みてみます。

以下は、国立大・公立大・私立大(文科系・理科系・医歯系)ごとの入学金・授業料・設備整備費について、4年(私立医歯系は6年)でどの程度かかるのかを算出した金額となります。

	国立大	公立大	私立大・文科系	私立大・理科系	私立大・医歯系
入学金	282,000	364,727	231,811	254,941	1,050,306
授業料	535,800 / 年×4年 2,143,200	537,878 / 年×4年 2,151,512	781,003 / 年×4年 3,124,012	1,101,854 / 年×4年 4,407,416	2,847,940 / 年×6年 17,087,640
施設整備費	—	—	152,496 / 年×4年 609,984	184,102 / 年×4年 736,408	872,711 / 年×6年 5,236,266
合計	2,425,200	2,516,239	3,965,807	5,398,765	23,374,212

・国立大は「『国立大学等の授業料その他の費用に関する省令』で定める大学(学部)の納付金の標準額」(単位:円)  
 ・公立大は文部科学省「公立大学 平成30年度学生納付金調査結果」から82大学平均値(入学金は地域外)  
 ・私立大は文部科学省「平成29年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額の調査結果」

日本学生支援機構(JASSO)が行っている『学生生活調査』の2016(平成28)年度の結果によると、大学生の実際にかかっている学費は、以下のようになります。ここには授業料等以外にかかる、「修学費」(教科書・実習材料費・文具類等の購入費・実習保険料)、「課外活動費」(部活動・サークル活動等)、「通学費」も含まれています。1年間の合計は、国立大で60~70万円に対して、私立大で130~140万円でした。**4年間で算出すると、国立大で250~280万円程に対し、私立大は530~560万円程**となります。

### [ 1年間 ]

区分	国立大・自宅	国立大・下宿	私立大・自宅	私立大・下宿
授業料	500,400	503,100	1,022,200	1,115,900
他学校納付金	11,300	8,000	146,200	182,500
修学費	46,000	49,800	44,200	47,800
課外活動費	45,500	52,300	30,100	35,100
通学費	96,400	10,000	100,100	21,900
合計	699,600	623,200	1,342,800	1,402,200

(単位:円)

### [ 1年間×4年 ]

区分	国立大・自宅	国立大・下宿	私立大・自宅	私立大・下宿
授業料	2,001,600	2,012,400	4,088,800	4,463,600
他学校納付金	45,200	32,000	584,800	730,000
修学費	184,000	199,200	176,800	191,200
課外活動費	182,000	209,200	120,400	140,400
通学費	385,600	40,000	400,400	87,600
合計	2,798,400	2,492,800	5,371,200	5,612,800

(単位:円)

**!** **CHECK** これまで国立大学の授業料は2005(平成17)年度から全国一律で年間535,800円でしたが、一部の大学で2019(平成31)年度から授業料を値上することを発表しました。東京工業大学では授業料を99,600円値上し年額635,400円に、東京藝術大学では20%値上げし年額642,960円となることを決定しています。

## 授業料免除制度

全ての国立大学で、意欲と能力のある学生が経済状況に関わらず修学の機会を得られるようにするため、授業料の免除・減免措置が行われています。文科省によると、2014(平成26)年度実績で、のべ18.1万人(前期・後期の2学期分)、計378億円が実施されています(文科省「家庭の教育負担や公財政による教育分野への支出等」より)。

### 鳥取大の場合

鳥取大学での授業料免除制度の状況は以下の通りです。2016(平成28)年度と2017(平成29)年度の2か年分実績です。在籍学生総数約6000名のうちのべ1100~1200名(半期ごとに約500~600名、在籍学生の約1割)が、授業料の全額免除または半額免除となっています。

2016年度	前期	後期	年間のべ
全額免除者	384	315	699
半額免除者	148	293	441
免除者合計	532	608	1,140
申請者	595	646	1,241

(単位:人)

2017年度	前期	後期	年間のべ
全額免除者	396	346	742
半額免除者	156	249	405
免除者合計	552	595	1,147
申請者	603	651	1,254

(単位:人)

※免除においては、次のいずれかに該当し、本人の申請に基づき選考が行われます。免除は限られた予算の範囲内で実施するため、基準内でも免除とならない場合があります。

(1) 経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 授業料納付前6ヵ月以内において、学資負担者が死亡、または本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、納付が著しく困難であると認められる場合

※「入学科」に関する「免除」「徴収猶予」の制度もあります。

# 02. 大学生の現状 [支出面]

大学生にとって、学費以外でかかる「生活費」には、どのようなものがあるでしょうか。

全国大学生生活協同組合連合会が実施する『第53回学生生活実態調査CAMPUS LIFE DATA2017』によると、大学生の「1ヵ月の生活費」は、自宅生・下宿生で右のようになります。貯金・繰越を含めますが支出合計でみると、自宅生で約6万円、下宿生で約12万円となっています。下宿生の大きなコストとなっているものはやはり「住居費」で、5.3万円となっています。自宅生の場合このコストを抑えることができますが、交通費は逆に自宅生の方が高くなっています。

下宿生における「住居費」とは、つまり、ひとり暮らしにおける家賃代です。この家賃代は、全国一律では決してありません。当然ながら、家賃が高い地域もあれば、安い地域もあります。

右は総務省の小物物価統計調査(平成29年結果)の「住居」に関する都道府県ごとの地域差指数リストです。全国平均を100とした場合、東京都が134.5で最も高く、鳥取県は81.1で最も低くなっています。人口集中度が高い首都圏だけが全国の中で高く、地方ほど低い指数となっています。鳥取県のみならず、**地方ほど住居費コストは低く抑えることができます。**

以下は、ひとり暮らしをした場合に、大学4年間でかかる住居費(家賃額)を想定算出したものです。

## 4年間の家賃総額の想定算出

- 鳥取の安め物件だと... 1ヵ月 **2万円** × 12ヵ月 × 4年 = **96万円**
- 鳥取の平均的物件だと... 1ヵ月 **4万円** × 12ヵ月 × 4年 = **192万円**
- 東京の安め物件だと... 1ヵ月 **6万円** × 12ヵ月 × 4年 = **288万円**
- 東京の平均的物件だと... 1ヵ月 **8万円** × 12ヵ月 × 4年 = **384万円**

- もし1ヵ月の家賃が**2万円**違えば、4年間で **約100万円の差**
- もし1ヵ月の家賃が**4万円**違えば、4年間で **約200万円の差**
- もし1ヵ月の家賃が**6万円**違えば、4年間で **約300万円の差**

全国大学生生活協同組合連合会  
『第53回学生生活実態調査CAMPUS LIFE DATA2017 1ヵ月の生活費』

1ヵ月の生活費	自宅生	下宿生
食費	12,580	25,190
住居費	270	52,820
交通費	8,680	3,330
教養娯楽費	9,470	9,830
書籍費	1,340	1,510
勉強費	1,130	1,380
日常費	5,280	6,070
電話代	2,210	3,800
その他	2,770	3,010
貯金・繰越	18,880	13,820
支出計	<b>62,590</b>	<b>120,750</b>

(単位:円)

総務省 平成29年度小物物価統計調査「住居」

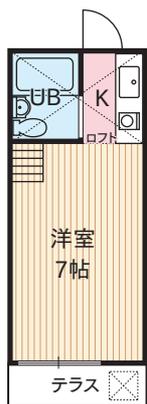
	都道府県	地域差指数		都道府県	地域差指数
1	北海道	83.5	25	滋賀県	89.3
2	青森県	89.4	26	京都府	91.8
3	岩手県	90.2	27	大阪府	97.2
4	宮城県	99.4	28	兵庫県	99.4
5	秋田県	88.0	29	奈良県	84.1
6	山形県	89.5	30	和歌山県	96.2
7	福島県	93.8	31	鳥取県	81.1
8	茨城県	97.6	32	島根県	83.6
9	栃木県	87.2	33	岡山県	87.2
10	群馬県	85.5	34	広島県	89.4
11	埼玉県	109.9	35	山口県	88.2
12	千葉県	103.1	36	徳島県	92.3
13	東京都	134.5	37	香川県	87.4
14	神奈川県	124.8	38	愛媛県	84.5
15	新潟県	91.1	39	高知県	90.2
16	富山県	88.9	40	福岡県	85.7
17	石川県	86.1	41	佐賀県	82.9
18	福井県	86.8	42	長崎県	93.6
19	山梨県	94.0	43	熊本県	83.1
20	長野県	87.3	44	大分県	83.8
21	岐阜県	84.0	45	宮崎県	86.9
22	静岡県	98.6	46	鹿児島県	84.0
23	愛知県	94.4	47	沖縄県	84.7
24	三重県	93.2			

全国平均 100



「東京におけるひとり暮らし」を想定すると、1ヵ月の家賃相場は6~10万円ですが、「地方におけるひとり暮らし」の家賃相場は2~5万円です。もしも、1ヵ月の家賃金額が2万円違えば、4年間で約100万円の差となります。4万円違えば約200万円、6万円違えば約300万円も異なります。「地方から首都圏の大学へ進学」することを想定すれば、当然、莫大な生活費(特に高額な家賃費)がかかります。しかし、首都圏ではない「地方の大学へ進学」することを想定すれば、ひとり暮らしにおける住居費を大幅に安価に抑えることができます。

## 東京



### 東京都世田谷区 「桜上水駅」近くの物件

- 1K(洋7帖/20㎡)、フローリング、1階、  
室外洗濯置場、エアコン、コンロ(1口)、  
バス・トイレ同室(ユニット)、ロフト、テラス、  
駐輪場、築40年、木造。
- 駅まで徒歩15分、  
大学まで電車で5分、  
コンビニまで徒歩5分。
- 1ヵ月の家賃7万円  
(敷金1、礼金1)

1ヵ月家賃  
**4万円の差**  
4年で  
**200万円**  
の差

## 鳥取



### 鳥取県鳥取市 「鳥取大学駅」近くの物件

- 1K(洋7.3帖/20㎡)、フローリング、3階、  
室内洗濯置場、エアコン・冷蔵庫・洗濯機  
電子レンジ・照明付、コンロ(1口)、バス・  
トイレ同室(ユニット)、収納(クローゼット)、  
ベランダ、駐車場、駐輪場、部屋別TVモニター、  
ネット無料、築25年、鉄骨造。
- 徒歩で大学まで5分、駅まで4分、  
スーパーまで3分。
- 1ヵ月の家賃2.8万円、共益費0.2万円  
(敷金1、礼金1)

## ②生活費

地方の生活の  
いいところ！

地方には、家賃が安価だけでなく、  
それ以上に良いことが沢山あります!!

Time  
is  
Money!

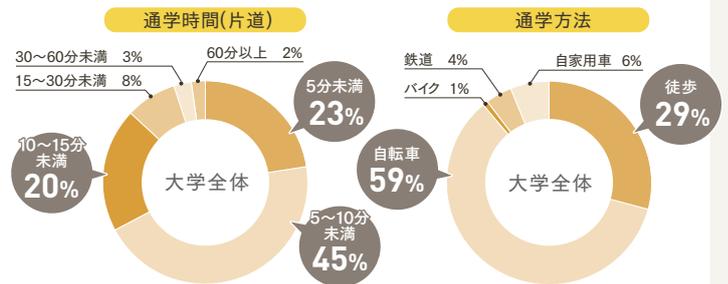


### ① 通学が楽！

地方には、都会のような「通勤・通学ラッシュ」「満員電車」「定期券」という概念自体が存在しません。地方では、大学周辺の隣接地域にアパート・マンションが数多く立ち並びます。そのため、「電車に乗って通学」ではなく、近くの大学へ「徒歩または自転車で行く」ことが当たり前です。これは、**通学にかかる「費用」がかからないだけでなく、通学にかかる「時間」も短縮できます。**通学に片道1~2時間(往復で2~4時間)程かかることは都会では当たり前かもしれませんが、地方であれば、片道5~15分(往復10~30分)程度が当たり前です。大学と家の距離が近いことで、**授業の空きコマを活用して、家に帰って洗濯・料理・食事・昼寝をすることも可能**です。

鳥取大生  
の場合

- 片道の通学時間は、大学まで5分未満(23%)、5~10分未満(45%)、10~15分未満(20%)で、約9割の学生が15分未満で通学しています。
- 通学方法は、徒歩(29%)か自転車(59%)です。



### ② 生活がしやすい！

都会の人は「地方=田舎」と思いがちですが、地方は生活圏と自然圏が分かれています。**人が住み生活する地域は、地方のほうがコンパクトです。**生活圏を少し離れれば、すぐに自然豊かな田園地帯や中山間地が広がっているのが地方です。都会では最寄駅からバスがなければ通えない、不便な場所にある大学もありますが、地方の場合、街の中心部や生活圏に位置する大学が多いです。

鳥取大  
(鳥取市)  
の場合

大学を中心に半径2kmが学生の生活圏です。

コンビニエンスストア(11店舗)、スーパー(4店舗)、ドラッグストア(4店舗)、病院(13医院)、歯科(11医院)、郵便局(4局)、銀行(3行)、JR駅、長距離バス停、空港、漁港、市場、飲食店も多数あります。自転車があれば10分未満で行けるところに、だいたいものが揃います。(※郵便局のATMは学内に有り。)



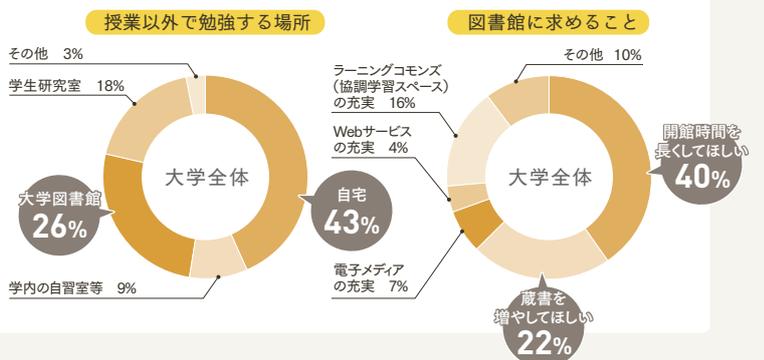
### ③ 「勉強・研究に集中」できる！

大学生の本分は、**アルバイトではなく、「勉強と研究」**です。地方には、都会のように流行を追ったお店や遊びの店舗はあまりありません。学生は日々、大学と家を往復しながら、無駄な時間をつくることはありません。勉強と研究に没頭できる環境こそ、地方の大学の魅力です。また、勉強に集中できずに他の活動にのめり込んでしまう学生は、大学が集中する都会には数多くいますが、地方には大学自体がそもそも少なく、**真面目な気質の学生が多いのも特色**です。

鳥取大生  
の場合

「授業以外で勉強する場所」として学生が選んだ場所は、「自宅」43%で、次が「大学図書館」26%でした。

鳥取大学の大学図書館は、通常授業時、8:40~23:00まで開館しています。日常普段から自習場所として図書館を利用している学生が多く、「図書館に求める」ことの中で最も多い回答は「開館時間を長くしてほしい」でした。



## 現在の大学生の「収入面」はどうなっているのでしょうか。

日本学生支援機構(JASSO)が2年に1度、全国の大学生を対象に実施している『学生生活調査』の2016(平成28)年度の結果は以下の通りでした。

区分	家庭からの給付(仕送り)	奨学金	アルバイト	定職・その他	収入総額	
大学(昼間部)	国立	976,100 (60.4)	297,900 (18.4)	303,300 (18.8)	37,500 (2.3)	1,614,800 (100)
	公立	806,800 (52.2)	353,300 (22.8)	354,500 (22.9)	32,000 (2.1)	1,546,600 (100)
	私立	1,255,200 (60.4)	408,200 (19.6)	368,700 (17.7)	46,100 (2.2)	2,078,200 (100)
	男	1,162,000 (59.8)	383,000 (19.7)	353,500 (18.2)	44,200 (2.3)	1,942,700 (100)
	女	1,199,900 (60.3)	387,700 (19.5)	358,800 (18.0)	43,400 (2.2)	1,989,800 (100)
平均	1,180,700 (60.1)	385,300 (19.6)	356,100 (18.1)	43,800 (2.2)	1,965,900 (100)	

(単位:円・()内は%)



国立大と私立大を比べると、収入総額が国立大約161万円、私立大が約208万円で金額的な違いはあるものの、「家庭からの給付(仕送り)」「奨学金」「アルバイト」の比重は、大きく異なりません。「家庭からの給付(仕送り)」は約6割、「奨学金」約2割、「アルバイト」約2割となっています。

『学生生活調査』は日本学生支援機構(JASSO)が2年毎に実施しています。上記の収入総額の結果を、平成28(2016)年から平成14(2002)年まで遡ったものが、以下の表とグラフです。

表は金額を示しています。「家庭からの給付(仕送り)」は減額する一方、「奨学金」は増額していますが、全体の収入総額は減額傾向にあります。

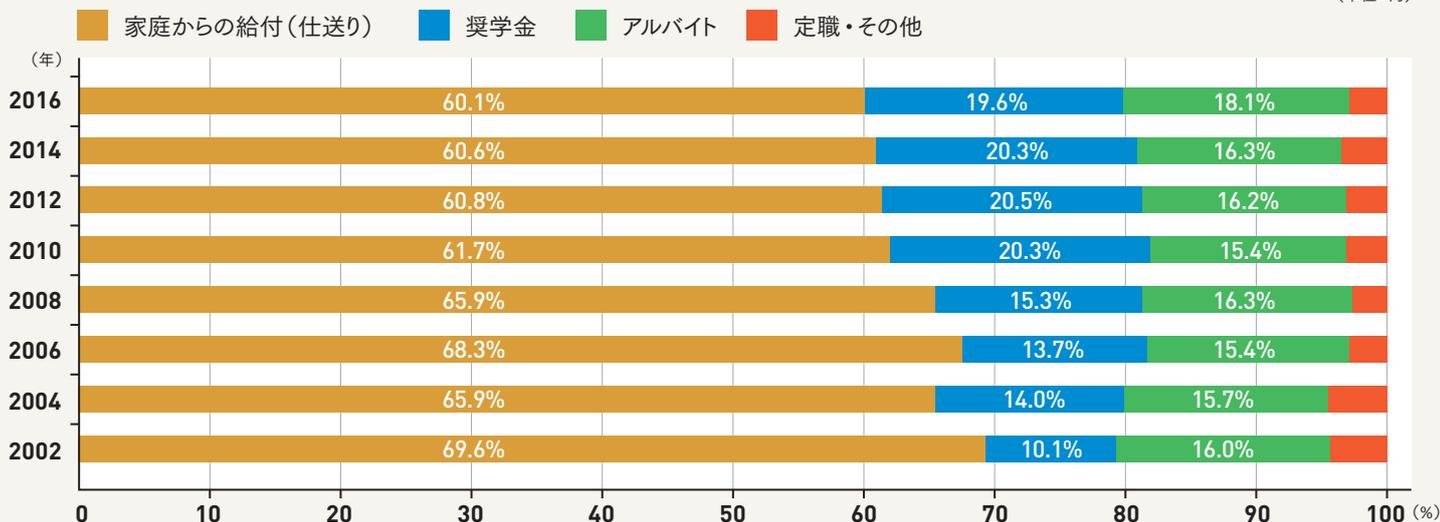
棒グラフはその年における収入総額に占める各項目の割合を示しています。収入総額全体の中で、「家庭からの給付(仕送り)」の占める割合は7割から6割へと占有率が低下する一方、「奨学金」の割合が1割から2割へと拡大しています。

[収入] =  
①仕送り+  
②奨学金+  
③アルバイト



大学(昼間部)	家庭からの給付(仕送り)	奨学金	アルバイト	定職・その他	収入総額
2016年	1,180,700	385,300	356,100	43,800	1,965,900
2014年	1,193,800	400,000	321,800	55,800	1,971,400
2012年	1,215,200	408,500	322,600	51,000	1,997,300
2010年	1,227,500	402,700	306,900	51,400	1,988,500
2008年	1,449,400	336,700	358,300	54,400	2,198,800
2006年	1,496,300	300,300	336,300	57,600	2,190,500
2004年	1,449,200	308,500	344,700	97,900	2,200,300
2002年	1,556,700	225,800	358,700	96,600	2,237,800

(単位:円)



## 大学生への「家庭からの給付」(仕送り)はどうなっているのか、みてみましょう。

下のグラフは、約20年間の「家庭からの給付(仕送り)」について、日本学生支援機構(JASSO)が調べた調査結果です。年間の金額となります。20年前は150万円(1ヵ月12.5万円)だったのが、近年では118万円(1ヵ月9.8万円)となり、**1ヵ月あたりで10万円を切っている状況**です。

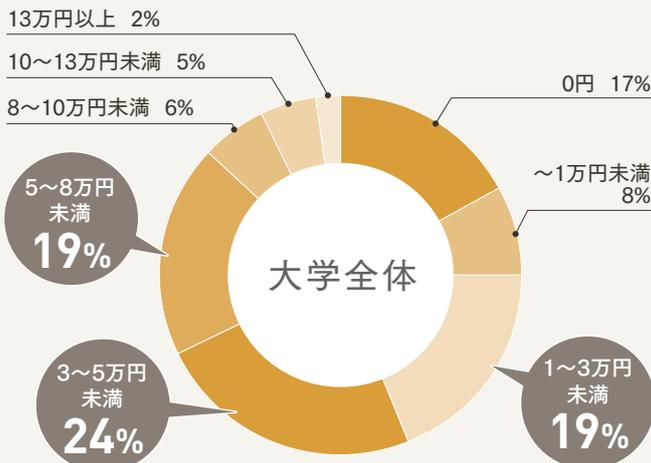
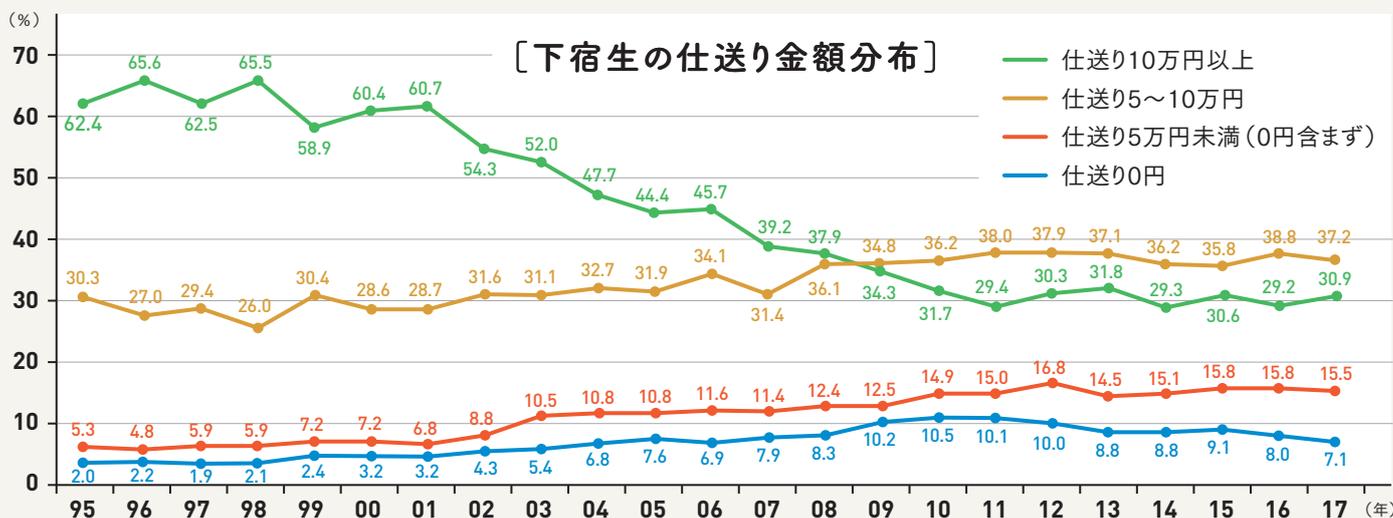
日本学生支援機構 学生生活調査より



**CHECK** 2000年前後に150万円を超えていた、家庭からの給付(仕送り)は、近年、120万円以下に減額傾向。

全国大学生協共同組合連合会は、大学生の学生生活に関する『学生生活実態調査』で、仕送り金額の違いを区分にして時系列で調べています。以下のグラフです。「仕送り10万円以上」の割合が2001年までは約6割以上でしたが、急激に低下傾向にあり、近年では約3割となっています。「仕送り5万円未満」と「仕送り5～10万円」の層が増加傾向となっています。

全国大学生協共同組合連合会 第53回学生生活実態調査報告書『CAMPUS LIFE DATA2017』より



### 鳥取大生の場合

#### 5万円未満の仕送りで、約7割の学生が生活

平成28年度『鳥取大学学生生活実態調査報告書』の「家族等からの仕送り(1ヵ月)」を確認すると、左のグラフとなります。

学生の中で最も多い割合の仕送り額が「3万円～5万円未満」で24%でした。次が「1万円～3万円未満」と「5万円～8万円未満」でそれぞれ19%でした。それに続くのが「0円」で17%でした。一方、「10万円以上」は全体の7%でした。

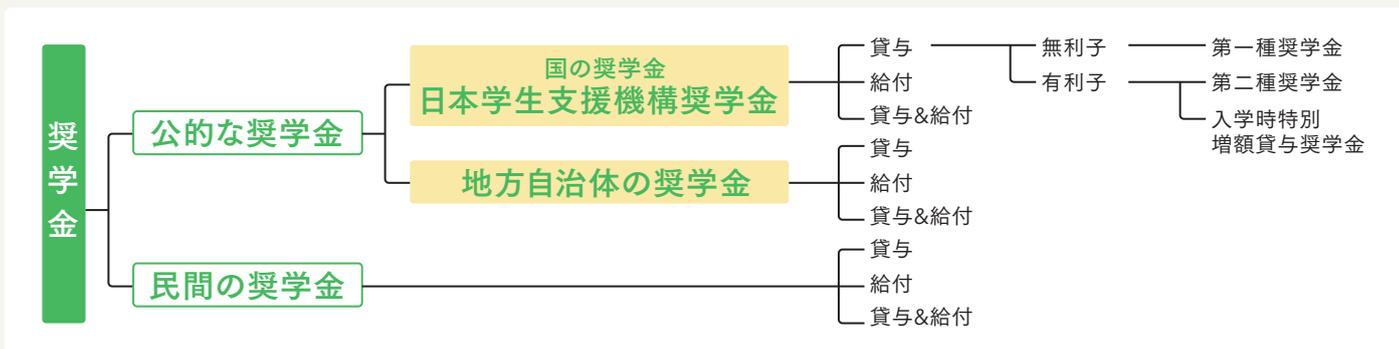
## (1) 奨学金制度とは

「奨学金」＝「大学生活を送るのに必要なお金をタダでもらえる」と考えてはいけません。奨学金には、「貸与」と「給付」の2種類があります。この点をまず、注意しましょう。

「貸与」とは、「お金を貸し与える」つまり「返すことを条件にお金を貸す」ことであり、返済が必要です。

「給付」とは、「お金を支給する」ことであり、返済は不要ですが、支給の諸条件が厳しく案件自体が少ないです。

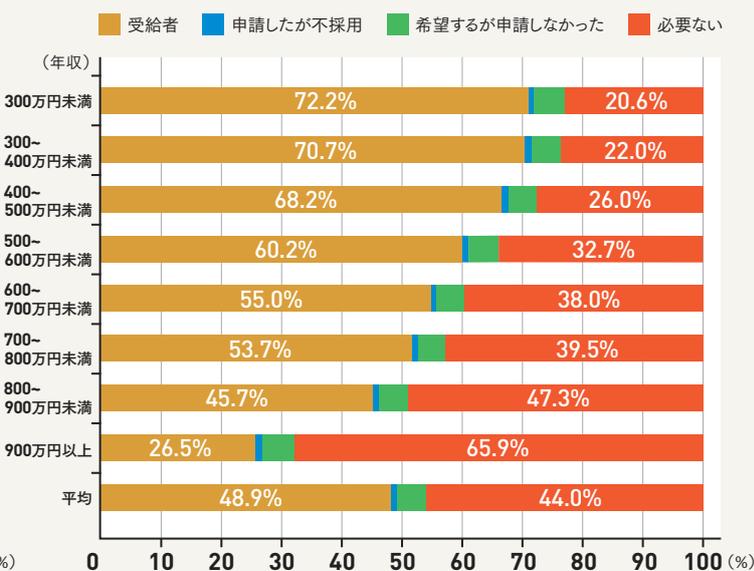
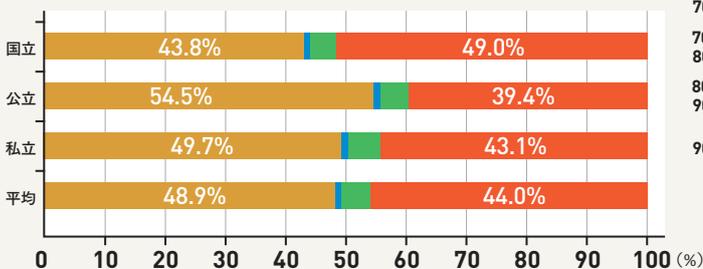
奨学金制度には、公的な奨学金と、民間の奨学金があり、全体としては以下のようになっています。



日本における奨学金の多くは、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金です。HPには2015（平成27）年度予算事業規模が掲載されています。「貸与金額約1兆1千億円」、「貸与人員は134万人」です。

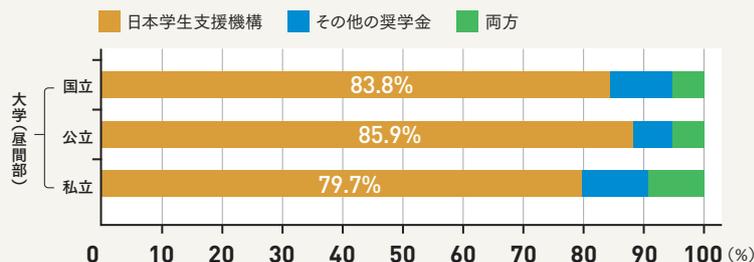
日本学生支援機構（JASSO）が2年に1度、全国の大学生を対象に実施している『学生生活調査』の2016（平成28）年度結果によると、「奨学金の受給」は大学生平均で48.9%で、約2人に1人が利用しています。

「家庭の年間収入別」グラフをみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて受給者の割合が低くなっています。



## (2) 奨学金の種類

- 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金のほとんどが「貸与」型です。「給付」型は、2017年度に設立された新しい制度で、家計基準が「住民税非課税世帯」もしくは「社会的養護を必要とする人」（「社会的養護を必要とする者」とは、児童養護施設入所者や里親のもとから高校に通っている等）という条件があり、対象は極めて限られます。
- 2016（平成28）年度『学生生活調査』の「奨学金の種類別受給状況」によると、奨学金受給者の約8割が日本学生支援機構（JASSO）の奨学金です。その他の奨学金（地方自治体や民間）の利用が約1割、両方が約1割です。



### (3) 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金の貸与額

※詳細は日本学生支援機構 (JASSO) のHPで確認下さい。

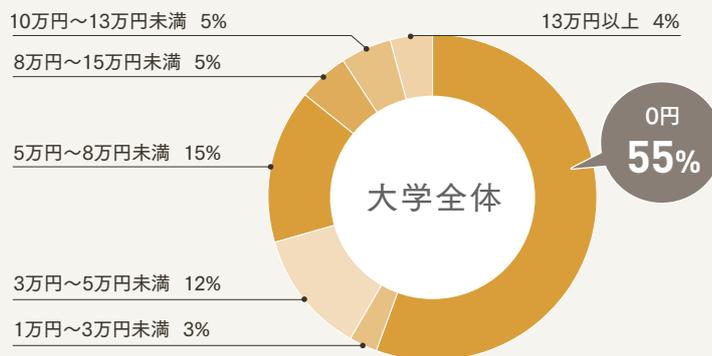
日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金 2018(平成30)年度以降大学入学者

第一種奨学金	無利子	貸与月額	国公立・自宅	2万円・3万円・4.5万円
			国公立・自宅外	2万円・3万円・4万円・5.1万円
			私立・自宅	2万円・3万円・4万円・5.4万円
			私立・自宅外	2万円・3万円・4万円・5万円・6.4万円
第二種奨学金	有利子	貸与月額	2万円～12万円 (1万円刻み)	
入学時特別増額貸与奨学金		貸与金額	10万円・20万円・30万円・40万円・50万円から選択 (入学前貸与ではないので注意)	

奨学金の採用には細かな基準が規定されています。例えば、第一種奨学金には、学力基準 (高校での成績の平均値が3.5以上) や家計基準 (世帯数4人で給与所得の上限目安が747万円) 等があります。必ず日本学生支援機構 (JASSO) のHPで詳細を確認下さい。

#### 鳥取大生の場合

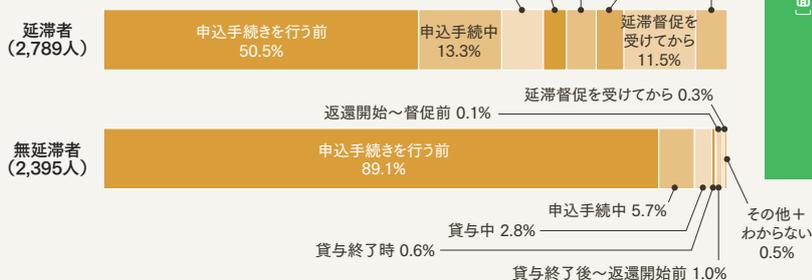
2016(平成28)年度『鳥取大学学生生活実態調査報告書』によると、鳥取大学の学生の奨学金の貸与月額は、「5～8万円」15%、「3～5万円」12%が多い割合です。



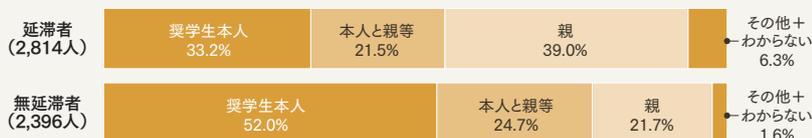
### (4) 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金申込前の確認事項

- 「奨学金」の借り主は、子ども自身であり、親ではありません。申込手続き前に、「**奨学金は返済義務がある**」ことを当事者である、**子どもに理解させましょう。**
- 日本学生支援機構 (JASSO) の『奨学金の返還に関する属性調査結果 (2016(平成28)年度)』によると、「奨学金の返済義務があることを申込手続き前に知った」割合は、無延滞者では約9割なのに対して、延滞者は約半数です。延滞者のうち、約半数が申し込み時に返還義務を知らなかったことになります。また、**延滞者ほど、親の書類作成率が高くなっています。**
- 日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金の申込は、タイミングとして2回あります。高校3年時に申し込む「予約採用」と、進学先の大学で申し込む「在学採用」があります。「予約採用」は高3の5～6月と10～11月に行われます。**高3の4～5月の時期に、高校で開催される奨学金の説明会に参加しましょう。**
- 日本学生支援機構 (JASSO) の第一種奨学金は無利子 (利息がつかず借りた元本のみを返済) ですが、**第二種奨学金は有利子のため、元本と利息を支払う必要があります。** 利率は上限3%、2018年10月貸与終了者の利率で、固定方式では0.33%、利率見直し方式では0.01%です (日本学生支援機構 (JASSO) のHPで最新情報を確認下さい)。
- 奨学金の返還には、長期間の時間を要します。社会人になってからの毎月の返済額と返済期間を、事前に確認しておきましょう。
- 一番の大きな心配は、返還ができない状況になった時です。延滞している割賦金の額に対して、返還期日の翌日から返還日までの日数に応じて、年 (365日当たり) 5% を乗じて計算した額の合計額が賦課されますので、注意が必要です。

#### 返還義務を知った時期



#### 奨学金申請時の書類作成者



貸与月額	4年間貸与総額	年利	返還総額	返還年数	返還回数	返還月額	完済時年齢
30,000円	1,440,000円	1%	1,543,214円	13年	156回	9,892円	35歳
		2%	1,650,545円			10,580円	
		3%	1,761,917円			11,294円	
50,000円	2,400,000円	1%	2,597,188円	15年	180回	14,428円	37歳
		2%	2,803,404円			15,574円	
		3%	3,018,568円			16,769円	
80,000円	3,840,000円	1%	4,257,117円	20年	240回	17,737円	42歳
		2%	4,699,817円			19,582円	
		3%	5,167,586円			21,531円	
100,000円	4,800,000円	1%	5,321,420円	20年	240回	22,172円	42歳
		2%	5,874,754円			24,478円	
		3%	6,459,510円			26,914円	

- 日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金の受取時期は、大学入学後の4月下旬～ 7月になるため、奨学金では「入学金」と「授業料 (1年前期)」を支払えない場合があります。
- 大学受験にかかる費用 (受験料・移動費・宿泊費)、入学金、アパートの賃貸契約にかかる経費 (契約費・敷金・礼金等)、ひとり暮らし生活用品購入代、授業料、教科書購入代等は、奨学金の受取前に発生します。受験から入学までにかかる費用を賄うために、奨学金とは別のお金が必要となります。

## [金融機関の教育ローン]

大学進学にかかる費用を、事前に準備する方法として、奨学金とは異なるものとして、「教育ローン」があります。教育ローンは、教育費に使用用途を限定した、金融機関による融資のことです。「奨学金」と「教育ローン」の違いは、大きく6点あります。

- ① 奨学金の借り主・返済主は「子ども」ですが、教育ローンの借り主・返済主は「保護者」です。
- ② 奨学金は申込時期が定められていますが、教育ローンはいつでも申込可能です。
- ③ 奨学金は大学入学後でないと利用できませんが、教育ローンはいつでも利用可能です。入学金・授業料だけでなく、受験費用や入学準備金にも使えます。
- ④ 奨学金は毎月一定金額が振り込まれますが、教育ローンはまとまった額が一度に振り込まれます。
- ⑤ 奨学金の返済は大学卒業後ですが、教育ローンは借りた翌月から返済が始まります。
- ⑥ 奨学金の利息は在学期間中発生しませんが、教育ローンの利息は借りた時点から発生します。

## ・国の教育ローン (日本政策金融公庫による教育ローン) ※詳細は日本政策金融公庫のHPで確認下さい。

「日本政策金融公庫」は公的な金融機関であり、教育一般貸付の金利は【年1.78%】(固定金利・保証料別、平成30年11月12日時点)です。最大借入金額は【350万円】で、返済期間は【15年以内】です。

民間の金融機関の教育ローンとの違いは、**所得の少ない方が低金利で利用できる**点です。母子家庭、父子家庭、世帯年収200万円 (所得122万円) 以内等の保護者の方の場合、金利は【年1.38%】で、返済期間は【18年以内】で利用が可能です。

## (5) 地方国立大学における独自の給付型奨学金

※詳細は大学HPで確認下さい。

地方国立大学においても、各大学で独自の給付型の奨学金を設けています。以下に2大学の給付型奨学金の具体的な事例をご紹介します。

鳥取大  
の場合

**優秀学生育成奨学金** 10万円 / 4名

学業成績、スポーツ・芸術、社会貢献活動に優れた者

**正光奨学金** 8万円 / 15名

学業優秀でありながら、経済的理由のため修学が困難な者

**とりりん奨学金** 3万円 / 50名

経済的理由のため修学が困難な者

新潟大  
の場合

**輝け未来!!新潟大学  
入学応援奨学金** 40万円 / 50名以内

現役受験者で評定平均値3.5以上、推薦または一般・前期に出願し合格したら入学を確約でき、世帯の前年収入・所得の合計が収入基準額以下であること。(入学前給付)

## (6) 地方自治体・公益法人・企業等の独自の給付型奨学金

都道府県・市町村・各種教育委員会、公益法人・企業によるもの等、数多くの給付型奨学金が存在します。資格や条件、支給金額や支給期間、人数等も多種多様です。給付型奨学金研究会編『大学進学のための全国“給付型”奨学金データブック[最新版]』(産学社)には、様々な給付型奨学金が掲載されています。お子さまにあう奨学金を探すにあたり、ご参考下さい。

# ③ アルバイト

## (1) 全国の大学生のアルバイト状況

日本学生支援機構(JASSO)の2016(平成28)年度『学生生活調査』の「アルバイトの従事状況」によると、調査時前の1年間においてアルバイトに従事した経験を有する大学生は83.6%にのぼり、学生の8割以上がアルバイトを経験していることがわかります。

区分	大学の種別	授業期間中			計
		臨時的(不定期)	週1、2日	週3日以上	
大学(昼間部)	国立	15.3	44.1	40.6	100.0
	公立	14.5	36.9	48.6	100.0
	私立	14.1	36.6	49.3	100.0
	平均	14.3	37.9	47.8	100.0

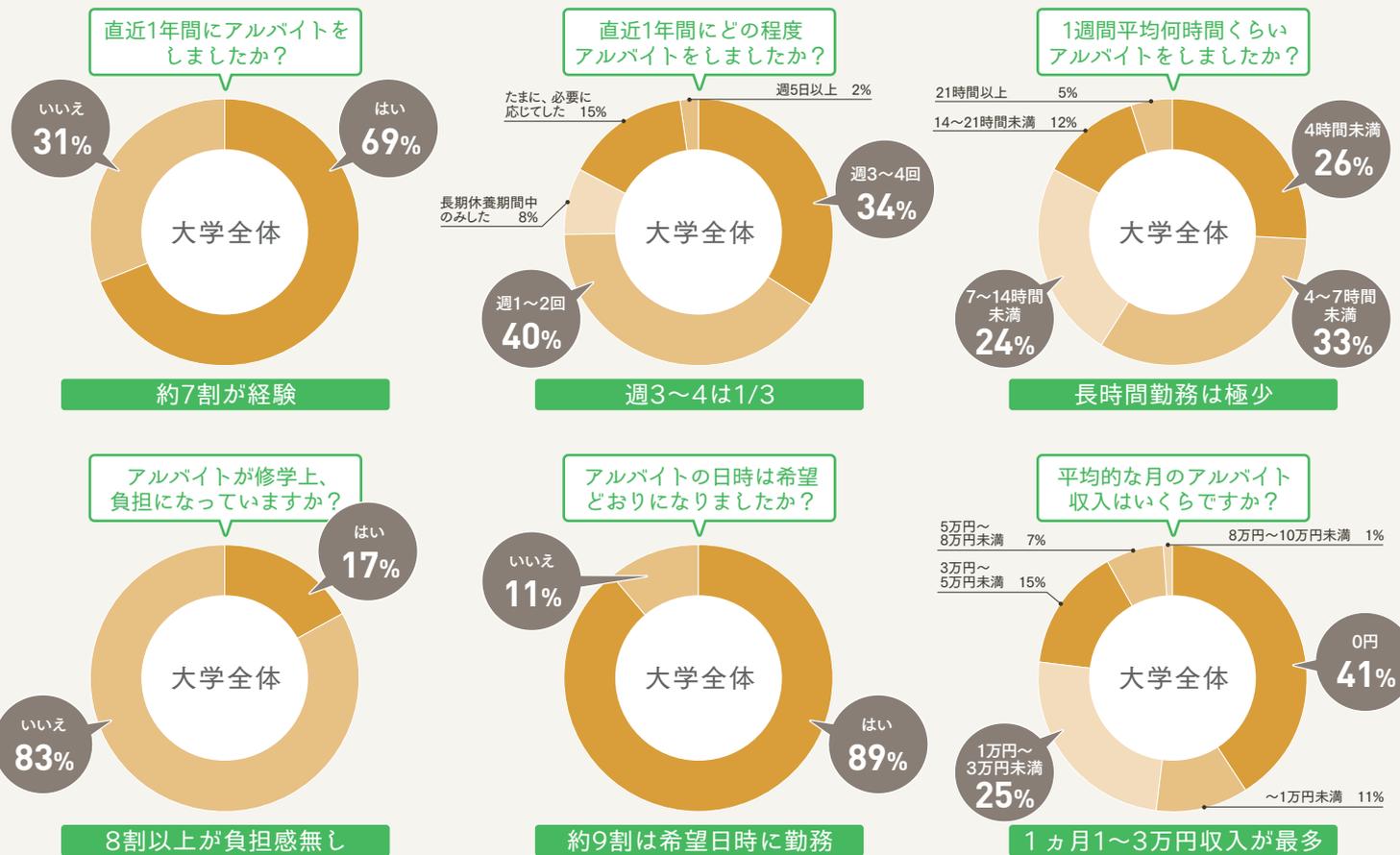


授業期間中におけるアルバイト回数は平均で、「週3回以上」47.8%、「週1～2回」37.9%となっています。

## (2) 地方国立大生のアルバイト状況

鳥取大の場合

地方国立大学生のアルバイト状況を、鳥取大学の学生のデータからみてみましょう。2016(平成28)年度『鳥取大学学生生活実態調査報告書』によると、アルバイトに関する学生アンケートの結果は、以下のようになりました。



15 大学生の現状「収入面」

## (3) 地方と都会の違い(メリット・デメリット)

地方

- ・移動に時間もお金もかからない。
- ・「家」「大学」「アルバイト先」も大学の周辺。
- ・時給が安い。時給800円前後。
- ・アルバイトの種類・選択肢は限られる。
- ・短時間で高収入を得る危険なアルバイトはない。
- ・アルバイト漬けの学生がほとんどいない。
- ・深夜の仕事が少ない。

鳥取大生の場合

都会

- ・移動に時間とお金がかかる。
- ・「家」「大学」「アルバイト先」が遠い。
- ・時給が高い。時給1000円は当たり前。
- ・アルバイトの種類・選択肢が豊富。
- ・短時間で高収入の危険なアルバイトも多い。
- ・アルバイト漬けの学生やフリーターが身近に多い。
- ・深夜の仕事も多い。



アルバイトは、収入を得るだけでなく、社会と接点をもつことで、社会の厳しさやマナーを学ぶことができる貴重な機会です。しかし、アルバイトのやり過ぎ、強制シフト、賃金未払い等がないよう、注意が必要です。

## 保護者の皆さまへ

受験生にとって、志望大学への“合格”は、大きな目標です。  
 受験勉強を乗り切るための、大きなモチベーションです。  
 しかし、大学合格そのものは、人生のゴールでは決してありません。  
 大学に合格することを“目的化”するのではなく、  
 大学で「何を学び」、「何を修得し」、「何にチャレンジするのか」、  
 よく考えて、受験に臨んでほしいと願っています。

「なんとなく、大学へ進学」  
 「みんなが受験するから、自分も大学」  
 「学びたいことは特になく、とりあえず」

上記のような理由で進学してしまうと、進学した本人や保護者の皆さまのみならず、  
 進学先の大学にとっても、送り出す高校にとっても、良いことはありません。

自分の意志がないことは、大学進学の意味を考えていないのと同義です。  
 大学入試改革で「主体性」が重視されるのは、大学進学者における目的意識の  
 希薄化の結果と言っても過言ではありません。

大学入学後、  
 「大学がおもしろくない」「授業よりもアルバイトを優先してしまおう」「大学でやりたいことなんか、みつからない」  
 といった学生は、どの大学でも、若干名あらわれています。  
 これまで一生懸命に勉強して大学に合格しても、  
 高額の入学金と授業料を支払い念願の大学に入学しても、  
 アパートをみつけひとり暮らし用の生活用品一式をそろえたとしても、  
 結果的に大学生としての目的を見失い、大学をやめてしまう学生もいます。

折角、合格して入学したのに、  
 いったい何のために大学生になったのか。  
 何がしたくて、大学生になったのか。  
 合格してから考えるのではなく、大学を受験する前の高校生である今だからこそ、考えてほしいと思います。

「どうして、その大学に進学したい？」  
 「大学でどんなことを学び、どんなことを研究したい？」  
 「大学生活を通じて、どんなことにチャレンジしたい？」

保護者の皆さまは、本人とじっくりと向き合う「時間と機会」を、ぜひ設けて下さい。  
 本人の意志を確認・尊重し、大学進学を目的を親子で共有した上で、応援していただきたいと思えます。

もし、「奨学金(貸与型)」を大学生の時に利用したら、借りたお金は大学卒業後、返さねばなりません。  
 奨学金(貸与型)の借り主は、お子さまであり、保護者ではありません。  
 自分で借りた大学進学を費用を、自分で返済していくためにも、高い志を持って大学へ進学してほしいと願っています。